

花尾中
図書
だより

Library News

2017 年
第 6 号



冬休みも終わり、三学期がスタートしました。今年一年の目標は立てましたか？三学期はアツという間に過ぎていきます。気を引き締めていきましょう！

今年も図書館を大いに利用し、たくさんの本を読んでください。



●●●●●●●●●●●●●●●● ★図書館利用状況★ ●●●●●●●●●●●●●●●●

9月（16日間）			
来館者数	771名	1日平均	48人
貸出冊数	484冊	1人平均	1.4冊

10月（18日間）			
来館者数	805名	1日平均	45人
貸出冊数	489冊	1人平均	1.5冊

11月（16日間）			
来館者数	579名	1日平均	36人
貸出冊数	243冊	1人平均	0.7冊

12月（11日間）			
来館者数	402名	1日平均	37人
貸出冊数	298冊	1人平均	0.9冊



冬休み前に借りた本は、速やかに返却してください。
次に読みたい人が待っています。



発表！上半期花尾中学校人気図書リスト

書名	著者名	出版社
カゲロウデイズ	じん	KADOKAWA
ソドアート・オンライン『グレシッパ』	川原 礫	アスキー・メディアワークス
君の臍臓をたべたい	住野 よる	双葉社
表参道高校合唱部！	櫻井 剛	学研プラス
よるのばけもの	住野 よる	双葉社
カブキフ！！	植田 ユウリ	角川書店
都会のトム&ソーヤ	はやみね かおる	講談社
ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月 隆文	宝島社
銀の空想科学読本	柳田 理科推す	メディアファクトリー
かがみの孤城	辻村 深月	ポプラ社
5分後に思わず涙	桃戸 ハル	学研
5秒後に涙のラスト	エブリスタ	河出書房新社



中間報告！ 2学期の貸出上位者を紹介します。

<貸出期間9月1日～12月21日>



1位	118冊	高橋 理彩子	2年
2位	114冊	中村 希美	2年
3位	64冊	井村 颯志	2年
4位	61冊	中田 優那	1年
5位	57冊	橋本 晃汰	2年
6位	43冊	津田 賢次郎	1年
7位	42冊	宮野 遥	3年
8位	39冊	北條 舞里亜	2年
8位	39冊	鈴木 健将	2年
10位	32冊	三好 修人	2年
10位	32冊	吉海江 剛	2年





●購入不可の本のお知らせ●

たくさんのリクエストありがとうございます。
図書館には、できるだけ娯楽的なものを置かず、
文学的なものを揃えたいと思いますので、
以下のようなジャンルは購入できません。

- ・ケータイ小説
- ・ポカロ小説
- ・残酷なシーンがある本

●リクエストの回答●

- 本のリクエスト用紙を出した人に返事をします。
- リクエストした本が「入荷」の人には、本が届いたらお知らせします。
- 学校の図書館なので、入荷できない種類の本もありますので、よく考えて、リクエストしてください。



●蔵書点検●

昨年 11/21~24 の三日間、図書館を閉めて、本がなくなっていないか、点検をしました。ブックヘルパーのボランティアさんと掃除担当の生徒に手伝ってもらい、点検が無事に終わりました。ご協力に感謝いたします。



図書館廊下に
購入OK&NGを
貼りだしています



◆◆◆◆ 郷土ゆかりの作家の紹介 ◆◆◆◆

佐木 隆三

1937(昭12)年、朝鮮咸鏡北道(現朝鮮民主主義人民共和国)に生まれる。広島県に帰郷したのち、原爆投下を目撃した。56年、八幡中央高校を卒業し、八幡製鐵(現新日鐵住金)に事務員として入職。兄の深田俊祐らと同人誌「日曜作家」を創刊、製鐵所内の職場雑誌にも作品を発表した。63年、「ジャンケンポン協定」で第3回新日本文学賞受賞。翌年退職し、のち上京。「奇蹟の市」で芥川賞候補、「大将とわたし」で直木賞候補となる。76年、『復讐するは我にあり』で第74回直木賞受賞。同作は、ベストセラーとなり、今村昌平監督により映画化された。その後、裁判所の傍聴記録連載を始め、宮崎勤裁判、オウム真理教裁判など重大事件に発言を続けている。伊藤整賞、福岡県文化賞など受賞。1999年、北九州市門司区に転居。

【作品介绍】

画像なし

「ジャンケンポン協定」 1965/05

八幡製鐵所で働いていた際の体験をもとにした短篇集。表題作は、ジャンケンポンで退職者を決めるという労働組合の協定をめぐる混乱を描く。早期退職をまぬかれようと、組合員たちは「アイコでショの術」を編みだす。



「昭和二十年八さいの日記」 2011/07 黒田征太郎 // 絵

少年は、「おくにのために」死ぬ覚悟だった。8歳だった隆三少年の心象を7歳だった征太郎少年が、渾身の気迫で描いたイノチの絵本。



「宿老・田中熊吉伝 鉄に挑んだ男の生涯」 2004/10

八幡製鐵所の最初の宿老、田中熊吉の評伝。宿老は、見識のすぐれた熟練工が抜擢されるもので、現場では「高炉の神様」と崇められた。著者は本作を門司港へ仕事場を移してからの記念的作品に位置付けている。